

ビジョン2010	中期(4ヵ年)目標	計画				戦略(実施策)	コスト	リスク	実行(実施の状況)	点検(評価、改善)
		21	22	23	24					
(1)生涯学習学部										
・ライブ配信授業のパイオニアとして、遠隔大学教育の新たな道を拓いている。	1.教育効果をより高めるために一層のシステム改良を行う。 2.eラーニング・システム活用の教授法・指導法のマニュアルを作成する。 3.eラーニング・ライブ配信のTipsを蓄積し、その情報を発信する。 4.音声双方向と動画配信を行う。	ニーズの把握。 教授法・指導法のマニュアル作成。 これまでのTipsの整理・情報発信の検討開始。 音声双方向の検討開始。	分析・整理。 遠隔地の学生の音声を配信できるようなシステムに改良(SOBAシステムの活用を含む)。	教授法・指導法のTips またはマニュアル作成。 eLyシステムでの音声双方向の検討を行う。 動画配信の検討を行う。	次期中期計画のための新たな課題の絞り込み。	共同研究などでマニュアルを作成する。				
・高度情報通信技術を積極的に取り入れて、いつでも、どこでも、誰でも学ぶことができる大学教育を提供している。	1.携帯電話、スマートフォン等の活用を図る。 2.SOBAシステムの活用して学生1人1人にあった支援を行う(個別指導や相談等)。	SOBAシステムの試行。	学生への「お知らせ」等を携帯等のネットでも発信。 SOBAシステム活用案を作成。	「お知らせ」等の発信充実。 SOBAシステム活用の実施。		文科省補助事業等を活用する。				
・高水準の教育・研究体制を安定的に維持、推進し、人材養成を含む生涯学習の研究・教育における斯界の拠点となっている。	1.生涯マネジメントの提唱を具現化する。 2.生涯学習学科教員の研究を推進する。	概要、構想等の作成。	資格取得支援重視の体制整備。 各教員が毎年研究目標を設定。	短期カレッジ等で試行。 教員の平均業績数を4件にアップ。	教員の平均業績数4件以上とする。					
・多くの自治体、企業、大学、短期大学、専門学校、学術的な諸学会、諸団体などの連携が広がっている。	1.自治体との連携を図る。 2.他大学とのインターネット・ライブネットワークを構築する。 3.企業・団体との連携を図る。 4.高大連携を図る。	「地域ICT活用モデル事業」採択中の自治体につき、連携可能な内容について基礎調査を行う。 大学間ネットワークの可能性を調査。 企業等の連携のパイロットを試行する。	神奈川県との連携を深める。 大学間ネットワークの可能性のある大学と協議開始。 企業等との連携を深める。 八洲学園傘下の高校と連携する。	神奈川県との連携を深める。 大学間ネットワークの試行。 企業等との連携を深める。 八洲学園傘下の高校と連携する。	神奈川県との連携を定着させ、他の自治体への波及の可能性を探る。 大学間ネットワークの稼働開始。 企業等との連携を定着させる。 八洲学園傘下の高校との連携を定着させる。	文科省補助事業等を活用する。				
・変化の激しい社会の需要に応えられる良質・柔軟構造の学部となっている。	1.生涯学習学科の専攻を廃止し、グループ構成とする。(21年度に達成) 2.大学拡張の組織を作る。(21年度にエクステンションセンターを立ち上げ、達成。) 3.FD研修の充実をはかる。 4.就職支援体制を整備する。 5.教員免許更新講習を実施し、年々受講者数を拡大する。	将来構想を立てる。 大学拡張の名称・組織の確定と公開講座の正規の単位化。 これまでのFD研修の総括と「報告集」をまとめ、新しい取り組みのデザインを策定。 100人定員x4回で募集。	学士力強化を検討。 新FDの実施。 就職支援体制の基礎をつくる。 政権や文科省の動向をみながら100人定員x1回で募集する。	学士力の強化に着手。 就職支援体制を確立する。	学士力強化の教育体制を確立。 就職支援体制を強化する。	文科省補助事業等を活用する。				
・卒業生が各界で活躍し、卒業生を含め関係者が誇りをもてる大学になっている。	1.同窓会や校友会組織が設立されていて、活発な活動が行われている。	同窓会の設立準備。	同窓会の基礎をつくる。	校友会設立を準備する。 同窓会を設立する。	校友会設立	学園祭実行委員会と相談して進める。				
(2)生涯学習学科										
・学外からの授業配信が実現され、国内・国外を問わず最適の教員が在任箇所から授業を行っている。	1.ポータブル教室を整備する。	ポータブル教室の試行拡大	ポータブル教室の拡大。	関西拠点の整備		機材購入	学外からの配信による情報セキュリティへの対応が必要			
・eラーニングを有効に利用して、変化の激しい社会の需要に応えられる多様な科目群や研修の機会を提供している。	1.社会のニーズにあったユビクで魅力的な講座を開催する。	公開講座の実施と正規科目への反映。	公開講座の充実と拡充。				多くの業界、学会との交流が必要			
・オンラインユニバーシティ(データベース、eブック等)が構築されており、学生に提供されている。	1.八洲学園大学レポジトリの構築を検討する。	システム構想・体制作りの検討。	システム構想・体制作りの検討。	著作権問題等と運営の可能性を検討。	試行。					
・人材養成・生涯学習が世界に発信できる成果をあげている。	次期中期計画									
・各界の実力者を特任教授などに任命している。	次期中期計画									
・学生、卒業生が学んだ成果を生かして講座プログラム等を開設して互いに学べるプラットフォームを提供している。	1.学生・卒業生による事業団を作る(ノンプロ セミプロ プロへの道)	文科省補助事業「学生支援プラットフォーム構築事業」を利用しての基盤作り。	試行的実施。文科省補助事業「学生支援プラットフォーム構築事業」を利用して拡大。	文科省補助事業「学生支援プラットフォーム構築事業」を利用して実施。	事業の拡大		文科省学生支援推進プログラムが通るかどうかが、21年度に選定され			

ビジョン2010	中期(4ヵ年)目標	計画				戦略(実施策)	コスト	リスク	実行(実施の状況)	点検(評価、改善)
		21	22	23	24					
各地に設けられたヒューマンズポットでは、卒業生がインストラクターとなり、その地域の学生の指導に当たっている。	1.自治体等との協力を得て全国にヒューマンズポットやプラットフォーム拠点を設置している。 2.事業団の中に人材バンクを作り、ヒューマンズポットを作る。	拠点候補の選定、名簿の作成	可能性と課題を探る。	具体案を策定。	活動の展開					
八洲学園内外で高大連携を進めている。	1.学園内の高等学校と連携を進める。 2.神奈川県・横浜市教育委員会との連携をはかる。	高校側のニーズの把握、連携の可能性を検討。県・市と調整	高校での特別講座開設、大学の科目受講可能性の検討。 文科省補助金等を活用して実施	連携実施	連携拡大		eLyのシステム修正にかかるコスト	GPが通るかどうか		
(3)人間開発教育専攻(22年度より生涯学習学科として取り組む)										
企業との連携が広がり、生涯マネジメント分野を拡張し、学生の要求に応えている。	1.特定の企業と連携し、ニーズにあった科目、カリキュラムを提供している	特定の企業との連携を構想。税理士、日商簿記(2級から)のための企業、財団・社団法人などとの連携を検討。科目の内容の充実、国際企業・多国籍企業勤務経験豊富な人材の招聘(短カレ)。	構想の実施。税理士養成系の短期カレッジ開催。外部講師の招聘。	構想の拡大。会計事務所などの税理士試験勉強中の人を対象とする短期カレッジの充実。	全体の拡大・充実。					
eラーニングを有効に利用して、変化の激しい社会の需要に応えられる多様な科目群や研修の機会を提供している	1.資格取得支援、社会人基礎力に関連する科目群、カリキュラムの充実を図る。	科目群の展望と選定。	資格取得支援の科目を充実させる(公開講座で実施し、正規科目の単位付与を含む。) 就業力を高めるリジリエンス関係の科目群の増設を検討する。	資格取得支援の科目を充実させる(公開講座で実施し、正規科目の単位付与を含む。) 就業力を高めるリジリエンス関係の科目群の増設する。	生涯リジリエンス系を新設する。					
人々のニーズに応える資格取得支援講座が提供され、資格・履修証明・科目修得認証等の取得サポート・プログラムが充実している。	1.生涯マネジメントの強化を図る。 2.資格・履修証明、科目修得認証等の分野の戦略的拡大を図る。(…土等) 3.税財務・ファイナンシャルプランナー分野の履修証明を開設する。 4.学校司書について、資格認証制度を、学外団体と連携して構想、実施する。	戦略的コースの選定、短期カレッジ(下記)の一般受講生を中心に税理士資格・日商簿記取得や就職に役立つ開設科目のPRを図る。構想を検討。	生涯設計・生涯所得と家計貯蓄・支出に関わる科目修得認証の新設。実施案を作成。	一層の充実を図る。実施。	「生涯マネジメント」メニューの効果測定。					
(4)エクステンション(22年度から導入)										
本学の特長を活かしつつ社会のニーズに応える公開講座を提供している。	eラーニングシステムを活用した講座の特長を全国規模で周知する。 地域の公開講座群の中で本学公開講座の特色を打ち出す。	公開講座用eラーニングシステム「Yueシステム」利用講座を開設し、そのメリットを広報の柱の一つにする。 専任教員の専門領域をいかに特色ある公開講座の工夫を、登校講座もあわせて試みる。	eラーニングシステムを利用した受講者毎期250名以上を達成する。 本学公開講座の特色の打ち出し方を見直す。	eラーニングシステムを利用した受講者毎期250名以上を維持する。 本学公開講座の特色を明確に打ち出している。						
公開講座において、高齢者のニーズに応える趣味・教養講座群を提供している。	公開講座によって系統的・発展的学修が可能な「プラチナエイジ大学」の学修プログラムを確立している。	「プラチナエイジ大学」構成講座の様々な試行をおこなう。	前年度の結果を受けて「プラチナエイジ大学」構成講座の新たな試行をおこなう。 試行結果にもとづき、「プラチナエイジ大学」の学修プログラムを練り上げる。	「プラチナエイジ大学」を本格的に開講する。 「入学者」(受講者)50名を達成する。						
公開講座において、ステップアップを図る社会人のニーズに応える資格講座を含む専門講座群を、eラーニングシステムを活用して提供している。	販売士、税理士、社会保険労務士の資格取得支援講座をeラーニングシステムを活用して提供している。	日商簿記2級対策講座、社労士試験の基礎講座等を開設し、「3土挑戦」をPRする。受講生合計50名を実現する。	日商簿記1級、財務諸表(税理士)、社労士試験、販売士2級の各試験対策講座を開設する。受講生合計50名を実現し、学部への入学を促進する。	税法(法人税等)、財務諸表(税理士)、販売士1級の各試験対策講座を開設する。受講生80名を実現し、学部への入学を促進する。						

ビジョン2010	中期(4ヵ年)目標	計画				戦略(実施策)	コスト	リスク	遂行(実施の状況)	点検(評価、改善)
		21	22	23	24					
・学外から各分野の実力者を講師として招いている。	資格、就職支援、教養等各分野で、毎期、学外の実力者が担当する講座が開設されている。	毎期、学外講師の講座を開設する。 学外の実力者の講演会を開く。 学外講師任用の仕組みを確立する。	前年度の結果をふまえて、学外講師の任用・配置を適正化する。	前年度の継続。						
・大学の学生・卒業生、一般の人たちが、ともに公開講座を受講している。	公開講座を、在学生は学部での学習の幅を広げるために、卒業生は再学習のために、一般の人たちと共に受講し、互いの交流ができる場をかたちづけている。	講座ごとに、在学生・卒業生・一般の人たちのニーズを把握するための試みをおこなう。	前年度の結果を講座設定に反映させる。 新たな試みをおこなう。	前年度の継続。						
・公開講座の資格講座等の専門講座の一部が、学部開設科目として取り入れられている。	税理士・社会保険労務士各資格関係科目が生涯マネジメント系専門科目として追加されている。 生涯学習支援系・生涯マネジメント系共通の科目として、語学・教養科目群(家庭教育専攻所属教員担当科目を含む)が創設されている。	学部科目となりうる講座を、一部は「単位認定講座」として試行する。	前年度の継続。	前年度の継続。 資格講座、教養講座とともに一部の講座が学部科目に取り入れられている。						
・受講料収入によって大学経営に貢献している。	受講料収入年間1,000万円を超えている。	受講料収入年間200万円以上を達成する。	受講料収入年間1,000万円以上を達成する。	前年度の収入額を維持する。						
(付)大学										
・ビジョンを実現するための条件を整備する。	1. 学生増を図り、財政基盤を確立する。 2. 大学の体制を整備する。 3. 教授会と事務局の役割分担を明確にすると共に、協力関係を強化する。	学生募集・財政基盤確立プロジェクトの立案・実施。 認証評価の準備と大学の体制整備。 教・事ネットワークの構築	認証評価の実施。	認証評価のフォロー。						